

毛呂山町

文化財散策マップ (3)

～資料館から川角・西戸の 文化財を訪ねて～

川角から越辺川を渡り西戸に至る文化財散策。
中世から江戸時代の庶民の信仰や文人たちの足
跡を中心に訪ねます。

毛呂山町歴史民俗資料館

〒350-0432

埼玉県入間郡毛呂山町大字大類535番地

TEL 049(295)8282 FAX 049(295)8297

＜一口メモ＞

●八幡神社の宝篋印塔

現在の川角小学校の近くには、かつて南蔵寺という寺院があり、八幡神社の宝篋印塔は南蔵寺から移されました。この宝篋印塔は天明8年(1788)、当時大変な被害をもたらした天明の大飢饉による死者に対する供養のために建立されたと考えられています。町内の石塔の中でも大型で、たいへん優美です。

●八幡神社の芭蕉の句碑

八幡神社の境内の一角に、芭蕉の句碑が建っています。もとは南蔵寺にありました。『道傍のむくげは馬に食われけり 芭蕉翁』と刻まれ、三世春秋庵と呼ばれた川村碩布の一門が文政12年(1829)に建立したことが判ります。川村碩布は芭蕉の流れをくむ毛呂山出身の俳人で、碑に刻まれた文字も碩布の書といわれています。

●西戸古墳群

毛呂山町には、越辺川流域に3つの古墳群があり、最も上流にあるのが西戸古墳群です。6世紀末から8世紀頃の古墳群で、西戸2号墳(既に消滅)では、5体分の人の歯が出土しました。横穴式石室の特徴である追葬、合葬の可能性を裏付ける成果がありました。また、古墳の上に建っていた石碑には、明治26年(1893)当時の発掘調査記録が刻まれていました。なお、西戸2号墳の石室は、歴史民俗資料館に復元されています。

ニュータウンが造られる前の山には、
かつて縄文時代や平安時代の人々が住
んでいました。



川角町民グラウンド